

⑦公共交通の維持・確保

事業検証シート

基本目標	都市基盤	快適な暮らしや活発な経済活動を支える都市基盤が整ったまち			
施策名	交通手段の確保と道路空間の創出				
基本事業名	持続可能な公共交通網の整備				
事業名	公共交通の維持・確保			<input type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
目的	市民の移動手段として必要不可欠である路線バス等の公共交通の維持・確保を図る。				
手段	補助要件を満たす路線バスや予約制乗合タクシーの運行、自家用自動車による公共交通空白地有償運送を支援する。※				
事業開始年度	バス路線補助（※新市移行後）平成17 予約制乗合タクシー 平成21 公共交通空白地有償運送 平成24	年度	事業終了年度	—	年度
成果指標	現状値の推移（実績）				目標値
	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
①平均乗車密度2.0を下回る補助対象バス路線数 ②乗合タクシーの月当たり利用者数 ③公共交通空白地有償運送の利用者数	①1路線 ②263人 ③431人/年	①1路線 ②241人 ③423人/年			①0路線 ②330人 ③486人/年
事業評価	<p>①路線バス補助金は前年に比べ、国及び県の補助を受け、主要幹線を運行する「地域間幹線系統」で約80万円、市単独で補助を行っている「赤伏・万内線補助」で約30万円増となっている。また補助対象基準となる平均乗車密度が2.0を下回る路線については1路線残っており、事業者負担による運行となり、路線の存続が危ぶまれる状況にあることから、効率的な運行となるよう、引き続き事業者との協議が必要である。</p> <p>②乗合タクシーにおいては、高齢者の利用が多く、年々利用減少傾向にある。平成29年度は3地区のうち2地区で利用者が減少に転じた。潜在的な利用者を取り込むための事業内容の周知と運行効率が向上するように、乗合利用の促進に向けた取組が必要である。</p> <p>③公共交通空白地有償運送事業は、旧十和田湖町地区において、路線バスとの接続を担う重要な交通手段となっている。利用者は増加傾向にあるものの、乗合い率が低いため、運行効率が向上するように、補助対象事業者に事業改善を求めていく。</p>				
達成状況	<input type="checkbox"/> 達成できた	<input type="checkbox"/> おおむね達成できた	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった	<input type="checkbox"/> その他	
今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化を図る	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続	<input checked="" type="checkbox"/> 内容を改善して継続		
	<input type="checkbox"/> 事業の統廃合を図る	<input type="checkbox"/> 休止または廃止			
上記理由	<p>人口減少及び少子高齢化が進み、公共交通利用者数が減少しているが、地域の生活交通を維持・確保する必要があるため。 （主な改善点） ①バス事業者と協議のもと、平均乗車密度を満たすことができるような路線の再構築を促す。 ②乗合タクシー及び③公共交通空白地有償運送については、持続可能な運営体制が必要であることから、利用者の確保、乗合率向上に向けた取組についての提案及び支援を行う。</p>				
備考	※平成30年度手段追記 「市街地循環バス及びコミュニティバスの実証運行に取り組む」				
	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
事業費実績 （単位：千円）	40,451	50,308	—	—	—